

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470200544
法人名	医療法人 社団 仁明会
事業所名	グループホーム 青葉
所在地 (電話番号)	石巻市門脇字一番谷地57番地の19 (電 話) 0225-23-5868
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4丁目2-8
訪問調査日	

【情報提供票より】(19年 11月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤 8人, 非常勤 0人, 兼務 0人	常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物形態	○併設/単独		○新築/改築	
建物構造	鉄筋造り			
	1階建て	1階	～	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	平均 1,170 円	
敷 金				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.5 歳	最低 78 歳	最高 90 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	斉藤病院 デンタルクリニック斉藤(歯科)
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームを運営する医療法人・仁明会は病院を中心とした法人グループの中心で、兄弟法人に特養(4ヶ所)運営を主体とした法人もあり福祉・介護との携わりの歴史は長い。静かな住宅地に老健施設・デイケア等と同一敷地内にあり、ホームの裏庭が中学校正門・通学路と接して入居者は美しい桜並木で春は花見を楽しんでいる。このホームの特徴は医療面で恵まれていて毎月第四水曜日の「水曜会」という入居者の集まりには老健の医師が看護師と共に同席して入居者と過ごし、さらに老健施設長の医師も看護師と共に随時巡回し入居者の健康診断や支援に当たっている。また職員の定着率も良く老健一階には託児所も有り、産休からもどった職員も明るく働いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部)
	前回の課題のうち、入浴時間帯の問題は毎日何時でも入浴できる体制になっている。年間の定期健康診断は色々の方法で全員受けている。緊急時の手当てについては、救急救命法の研修を受けている。ホーム内の衛生管理と注意の必要な物品の管理は手順書が作られた。ホーム機能の地域への還元はまだ不十分である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初め全職員が集まって自己評価の仕方について説明を受け、その後その日の勤務の職員が集まって項目順に話し合いを進めていき、最後に管理者がまとめて全職員に説明し、運営推進会議でも報告している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は約10名の委員で構成され討議内容はホームの活動状況の報告と家族の要望・さらに議題として市町村の実地指導の結果と改善事項の説明があり、それについての委員の意見交換、また地域定着型サービスの外部評価についての説明等双方向的である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居者家族の意見や要望を出来るだけ多く吸い上げる努力はしているが、まだ十分でない職員は感じていて、入居者・家族の要望が大事・苦情は施設の宝と職場全体でとらえそれを工夫・改善につなげて質の向上を目指す取り組みをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常生活における地域との連携はまだ不十分で、理解を得られる地域への働きかけや交流、ホーム機能の地域への貢献等について運営推進会議を活用し老人クラブへの働きかけ、子供達を呼び込む方法などが検討されている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人系列の理念をもとに職員・利用者が一緒に考えたホームとしてのスローガンを掲げているがさらに地域定着型サービスとして地域との関係性も入れていただきたい。又、理念は文章よりも短い言葉でポイントをはっきりうたったものをお願いしたい。	○	入居者の地域生活の継続や地域のニーズも入れた新しいホームとしての理念を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については職員間で話し合いも行われているし、言葉かけ態度等にも活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事への参加や保育園・学校・ボランティアなどへの働きかけは行っているが、地域との付き合い・交流は不足している。	○	地域の一員として近隣との関係作りは大切であるので、運営推進会議等も利用し、委員の方々から広く新しい人達を紹介してもらおう等の働きかけも期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意義やねらいについても話し合い、評価結果については運営推進会議でも報告しサービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は途中法人の人事異動等が入ったりして軌道に乗ったばかりだが双方向的な会議で活発な意見も出されているので、このままつづけてサービスの質の向上に努めていただきたい。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とはホームの理解や支援について話し合われているし相談もされているので、さらに社会貢献についても積極的に相談されるようお願いしたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には必ず入居者の状況を伝えるように努めているし、緊急時には電話での報告もしている。また毎月のホーム便りも手渡し、金銭管理についても確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望等には十分時間を設けてうかがうようにしているし、家族会でも話しやすいように配慮して多くの意見を出してもらい、それを職員で話し合っケアの向上に活かせるよう努力している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えられているし、離職に際しても以前働いた馴染みの職員が隣接施設から配置されるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせた外部研修会への参加や、日常的に学ぶための月1回の隣接施設の勉強会に全職員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入し、交流の機会を持てるようにして地区の交流・交換・研修に参加し、参加者は研修で得た良い点や改善点等を報告しケアの向上に役立てている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ず来てもらったり、職員が訪問したりしてホームの様子をよく知ってもらい、納得して入居してもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活するうえで入居者に得意分野(漬物等)で力を発揮してもらい多くの事を教えてもらい勉強になっている。職員は感謝し楽しく笑いの絶えない支援を行っている。		
ホーム					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや不安・必要な物の有無や体の痛み等随時うかがい、できるだけ本人の意向に沿った生活が送れるよう支援されているし、家族・知人からも色々の情報を得て入居者の意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスと3ヶ月に1回の見直しを基本に、職員間で介護計画の定期的な話し合いの場を設け、本人・家族の意向や関係者の意見も含め、必要な支援を盛り込んだ個別の計画書を作り、家族の同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しとともに毎月のカンファレンス・モニタリングの評価や、急に見直しが必要になった入居者については、随時本人・家族の意向を踏まえて介護計画の見直しをおこない、家族の同意を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時や特別な外出・外泊支援など必要に応じて柔軟に対応しているし、入居者の急変時等にも隣接施設の医師・看護師等の協力を得て一人ひとりの満足を高めるように努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医療機関の受診となるが、本人・家族の希望や受診科目によっては他の病院の診療も受けている。その際には家族にも協力してもらい、意向に沿った病院が受診できるよう配慮されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では事例が無いとの事であるが、重度化や終末期に向けた方針は作られているし、家族・本人にも説明して意向の確認をしている。また職員・関係者も方針を理解し話し合いも行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けや職員の色々の対応の仕方にも目立たないようにとの配慮がされているし、個人記録等の取り扱いについてもプライバシー確保に十分気を使っていて、入居者はおだやかに支援されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重しリズムに配慮してその人らしく生活できるよう、いろいろと意向を聞きながらやりたいことが出来るよう対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に応じて買い物・食卓の準備・食事の後片付け等その人の力を生かし、旬の食材も取り入れて好む物や馴染みの物を工夫し、和やかな雰囲気の中さりげないサポートで各テーブルの職員も一緒に食事している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の要望に応じ毎日でも入浴出来るようにしている。現在夜間入浴を希望される人はいないが夜間入浴も支援できるようにしている。入浴を拒む人には職員の連携と言葉がけや工夫で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの趣味(花作り等)や特技(縫い物等)をもとに好きな活動や役割が持てるよう働きかけが行われ、ホームの壁面は入居者の書や手芸品など数多くの作品が展示されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な買い物や散歩でなじみの店や場所に職員と出掛けているし、月に1度は「気晴らし外出」で全入居者とややはなれた場所に出掛けている。11月は2度目の映画鑑賞で「続・三丁目の夕陽」を入居者全員で見せてきている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており玄関の鍵は日中かけていない。また事故防止のため職員間の声がけや連携で入居者の所在の確認と安全に配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設との防災訓練や避難訓練は行われているがホーム独自の避難訓練は行われておらず、急変時等も含め併設施設に頼っているのでホーム独自の避難訓練も計画していただきたい。	○	運営推進会議を活用し地域の人たちの協力もお願いしてホーム独自の防災訓練が早い時期に行われることを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量をチェック表をもとに併設施設の管理栄養士に栄養バランス・カロリーをチェックしてもらい入居者一人ひとりに応じた食事形態・水分量の確保等に配慮支援している。体重チェックは毎月2回行っている。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は適切だし会話のトーンやテレビの音もほど良い。空気のよどみもなく適温に管理され、時計・暦と共に生活感を出せるよう家庭的な品々が配置されている。季節に応じた装飾が入居者の作品と共に飾られていて居心地よく過ごせるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人ひとりの個性に合わせ馴染みの物を持って来てもらい居心地よく過ごしてもらえるよう支援している。尚、入居者によっては物が多くあることでかえって混乱する場合もあるので、その場合には本人・家族とよく話し合い、意見や要望を聞いて配慮していただきたい。		